さっぽろ雪まつり遠隔体験実施報告

令和７年2月28日
R1.3

手稲養護学校三角山分校
一財）ニューメディア開発協会

Copyright(C) NEW MEDIA DEVELOPMENT ASSOCIATION All Rights Reserved.

実施総括

○全国から外出が困難な子ども１１５名（先生方含め全体で３３４名）が遠隔から雪まつりを満喫

・主催である北海道手稲養護学校三角山分校の他、全国青森から沖縄までの病気療養などで外出が困難な児童生徒が日本を代表する札幌雪まつりに遠隔から参加し、現地の様子を楽しみながら様々な人と交流し、充実したひとときを過ごした。

○子どもの自主性重視したアバターロボットの活用

・子どもたちの自主性を重んじ、子どもは遠隔からアバターロボットのカメラを上下左右に操作し、見たいところを自由に見て、サポータはこどもと相談しながら移動した。

○特別支援学校主体でのアバターロボット活用のモデル作り

・手稲養護学校三角山分校の全校イベントとして校長、教頭先生のもと、特別プロジェクトを編成し、活動学校主体での新しいモデル作りを行えた。

○事前のメタバース交流イベントを実施（CLUSTERでの独自の空間制作）

・児童生徒、先生方が自由なアバターで参加し、雪まつりへのの理解を深めた

Copyright(C) NEW MEDIA DEVELOPMENT ASSOCIATION All Rights Reserved.

実施概要

１．趣旨
　病気療養や肢体不自由、不登校等により外出機会が少ない状況にある児童生徒に対し、ICT を活用して、さっぽろ雪まつりを体験することや関係者との交流を行い、発信につながる表現力と社会性の向上を図る。

２．参加者数　総勢　子ども　　１１５名　　大人（先生、支援者、施設関係者）２１９名　総計　３３４名

３.スケジュール
　　2/10　10:00-11:30　アバター遠隔操作者（手稲養護学校三角山分校（病院訪問教育含む）児童生徒）
　　13:30-14:30　アバター遠隔操作者（全国特別支援学校　児童生徒他）

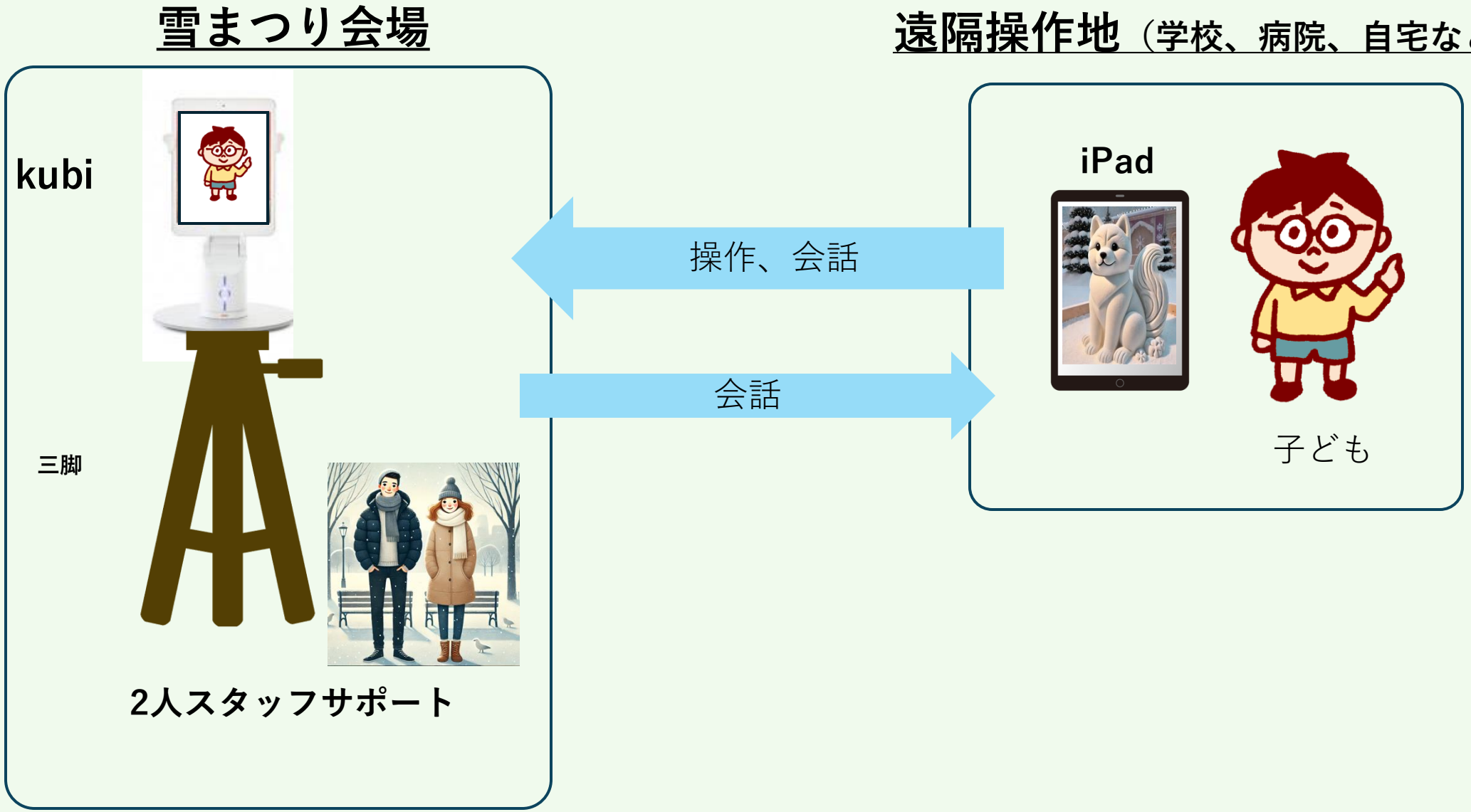
４．内容
・教員スタッフが Kubi（遠隔操作ロボット）を持ちながら移動し、要所で立ち止まりオンライン参加者に随時コントーロールしてもらう。（大雪像他を見学）
・大雪像制作隊長との雪まつりに関する交流
・事前盛り上げ策として本番（2/10）のメタバース空間での交流会を実施（1/29）

５．主催者・協力者
　〈主催〉
　・手稲養護学校三角山分校
　・一般財団法人ニューメディア開発協会

〈協力団体〉
　・北海道教育委員会
　・北海道文化放送
　・NPO 法人 手と手
　・公財）ベネッセこども基金
　・iPresence㈱

Copyright(C) NEW MEDIA DEVELOPMENT ASSOCIATION All Rights Reserved.

アバターロボットシステムイメージ



Copyright(C) NEW MEDIA DEVELOPMENT ASSOCIATION All Rights Reserved.

青空の下での大雪像ライブ中継開始

手稲養護学校三角山分校　校長先生のイベント開催挨拶
３セットのアバターをサポートする先生方

大雪像制作隊長の質問コーナは大人気でした

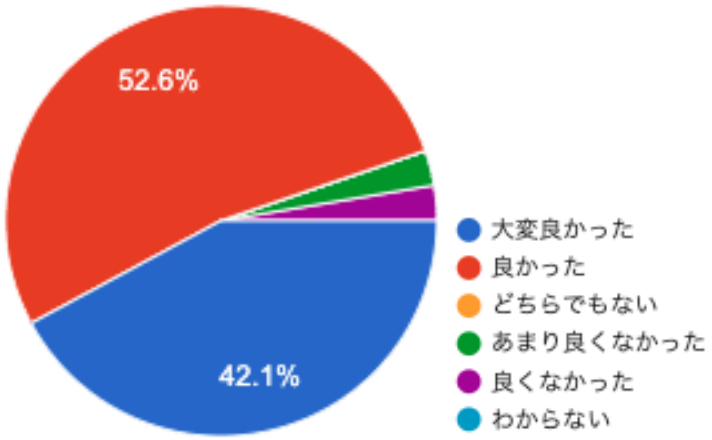
子ども間で盛り上がった
カップヌードルアトラクションコーナ

大人気のキャラクタも登場

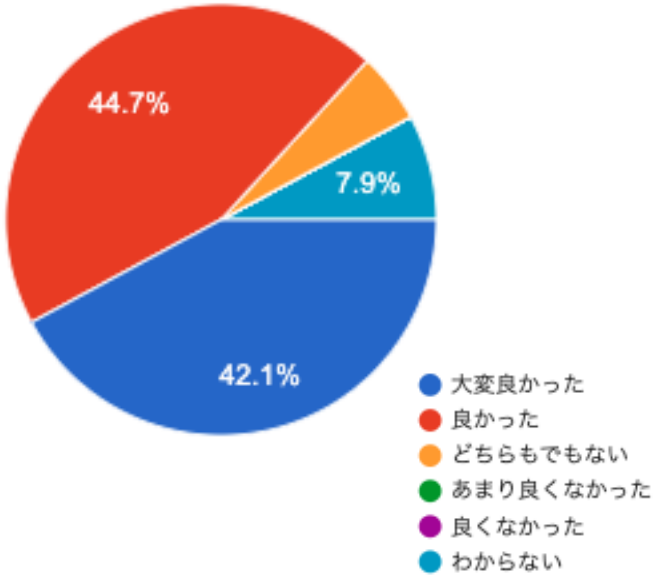
Copyright(C) NEW MEDIA DEVELOPMENT ASSOCIATION All Rights Reserved.

参加いただいた方に高い評価を頂きました（アンケート集計結果）

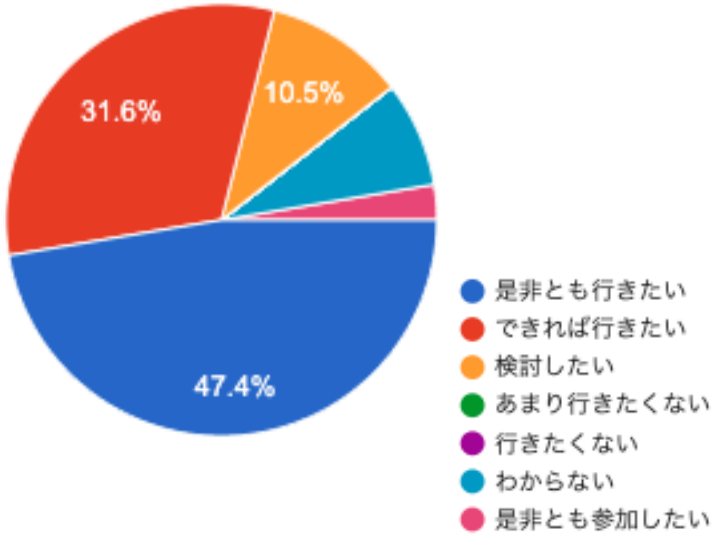
全体評価



雪像制作隊長質問コーナ



実際の雪まつりに行きたいか？



Copyright(C) NEW MEDIA DEVELOPMENT ASSOCIATION All Rights Reserved.

アンケートからの参加者のコメント①＜アバター遠隔操作者の声（地元の病院から外出が困難な子ども）

・雪まつりの雪像が見れた！　初めて見て大迫力
・「気が紛れた」とのこと（治療中の子ども）

・カメラを動かすことができるので実際にリアルのような体験
・自分の手で動かしていると自分の目で見ているような感じになれた

・ カップヌードルのアトラクションが楽しかった
・「めーっちゃくちゃ楽しかった　」「またやりたい！」「今度は実際に行って見てみたい」「滑り台滑ってみたい」など、興奮した

・雪まつりの会場を本当に歩いている気分になった
・雪像をいろいろともっと見たかった
・事前に雪まつりの雪像の事をメタバース空間で聞けて楽しみが増えてよかった

＜ZOOM視聴者の声＞
・他の学校の子どもとつながる機会を提供できることがよいと思う。

・校長先生がおもてなしの心満載でご挨拶してくださり、温かく参加することができた。

・生徒の好きなキャラクタも登場し、子どもは大興奮

Copyright(C) NEW MEDIA DEVELOPMENT ASSOCIATION All Rights Reserved.

アンケートからの参加者のコメント②　＜参加者サポータの声＞

・小児がんの治療にあたる児童生徒がアバターを使って参加できた
・病院にいながら参加できることに感動（病院から子どもと参加されたお母様）
・アバター使って自由に体を動かし、楽しんでた。また学習の機会があったらなぁ

・現場とのライブ交流は良かった。苦労した現場の声、雪像作りからまつり終了まで（雪像制作隊長の話）
・生徒が疑問に思ったことを自分で質問でき、疑問を解決することができてた。

・行けない遠隔からの中継や交流は子どものマンネリ化した入院生活から少しテンションがあがる
・沖縄は雪が降らないため、ただあの風景を見るだけで楽しめていた。
・『退院したら、北海道（札幌）いってみたいな』と和やかに親子で話ていた

・生徒が自分で操作できることは、ただ映像を見るだけとは全然違う良さがある
・児童生徒が、外界と直接繋がる喜びを感じ取ることができた
・子供達がワイワイ楽しそうにしているのを見て、仕事の休憩中でしたが、大人が癒されました。

・ICTの活用や学校外部とのつながりの在り方について大変勉強になった。

Copyright(C) NEW MEDIA DEVELOPMENT ASSOCIATION All Rights Reserved.

さっぽろ雪まつり　大雪像ライブ配信事前交流会（1/29）

○目的

・大雪像ライブ配信（本番）前の盛り上げとして遠隔参加者（検討者含む）の雪まつり理解促進
・主催である手稲養護学校三角山分校の活動紹介

○内容

・特設のメタバース空間で参加者は自分の好きなアバターで参加。
・雪像づくりの様子紹介、大雪像制作隊長への質問、クイズ大会など
（メタバースに参加できない方はZOOMで視聴）

○実施結果

・事前交流会開催前１２月下旬から、２/１０本番ライブまで５００人以上の来訪者あり
・新しいコミュニケーション手段として高い評価を得た

Copyright(C) NEW MEDIA DEVELOPMENT ASSOCIATION All Rights Reserved.

大雪像ライブ配信事前交流会（メタバース空間）の様子

学校紹介

それぞれのアバターで盛り上がりました

クイズ大会も大好評

雪像制作隊長にも登場頂きました

Copyright(C) NEW MEDIA DEVELOPMENT ASSOCIATION All Rights Reserved.

雪まつり控え手稲養護三角山分校

メタバースで雪像見学

事前交流会で会場内散策

さっぽろ雪まつりが2月4日から開かれる。手稲養護学校（星野健史校長）三角山分校は、会場を訪れることが難しい児童生徒に冬の風物詩を満喫してもらおうと、インターネット上の仮想空間「メタバース」による雪像見学に取り組む。29日に開かれた事前交流会では、生徒たちのアバターが仮想空間内の雪まつり会場を動き回った。完成間近の雪像の映像を見ながら、開幕に思いをはせた。

教育分野でのメタバース活用を巡っては、不登校児童生徒への支援策の一つとして、帯広市や札幌市などでの導入が進む。特別支援教育においても、障がいのある児童生徒の体験活動機会の確保など、共生社会の実現に向けた足掛かりとして期待が高まっている。

2年8月、八雲養護学校が札幌に移転して開校した同分校。これまでもICTを活用したアバターロボットによる校外学習やカフェでの接客体験、ロボットプログラミング選手権出場など、病弱児童生徒の自立や社会参加の可能性を広げる教育活動を展開している。

星野校長は、生徒たちに教育活動を展開している。

体験したい活動を聞くと「〝雪まつり〟という声が多かった」と明かす。車いすで生活する生徒たちにとって雪道の移動は困難を極めるため、雪まつりを体験したことのある生徒はほとんどいないという。「コロナ禍が明け、校外での活動は徐々に可能になったが、冬の校外活動はどうしても難しかった」と打ち明ける。

今回、デジタルで誰一人取り残されない共生社会の実現を目指す活動を展開する一般財団法人ニューメディア開発協会と連携。病気療養中や肢体不自由などで外出機会が限られる児童生徒に雪まつりを楽しんでもらおうと、アバターロボットを活用し、メタバース空間での体験を企画した。

29日の事前交流会。同校の中学部・高等部の生徒だけではなく、札幌医科大学附属病院や札幌北楡病院に入院し訪問教育を受けている児童生徒、全国の特別支援学校の生徒がアバターやズームでメタバース空間に参加した。

事前に収録した大通10丁目会場での雪像制作の進捗状況を紹介するとともに、雪像制作の責任者がリアルタイムで生徒たちの質問に回答。制作のために10トンダンプ270台分の雪を運んでいることを知った生徒たちは、拍手や「ノ」マークで驚いた様子を示した。

続いて、林美紗子教諭がメタバースプラットフォーム「クラスター」で制作した雪まつりクイズ会場に移動。○×クイズに挑戦しながら、雪まつり開幕に向けて期待を膨らませた。

2月10日には、アバターロボット「kubi」を活用し、大通10丁目会場の大雪像の遠隔見学を全国の特別支援学校にライブ配信する予定だ。中学部の広瀬佑馬さん（2年）は「（事前の練習によって）アバターを自由に動かすことができた」と笑顔。メタバース空間を初めて体験した高等部の伊藤聖矢さん（2年）は「当日は、いろいろな雪像を見るのが楽しみ」と目を輝かせた。

林教諭は、昨年10月の学校祭でメタバース空間を活用した生徒作品展示も担当した。「メタバース空間によって、例えば卒業後に交流するコミュニティーをつくることもできる」と展望する。

増田望教頭は「病院や学校にいながら活動する選択肢が広がる。もっとたくさんの経験を積む機会を提供したい」と意気込む。

星野校長は一車いすをジョイスティックで操作する生徒たちにとって、アバターを動かすことは難しいことではない」と話す。メタバース空間の活用によって「健常者と協働で活動することも可能だ。児童生徒の夢をかなえる大きなチャンスであり、教職員として今できることを最大限取り組みたい」と、特別支援学校における活用の拡大に期待する。

事前交流会に参加する生徒たち

アバターが仮想空間内を動き回った

教育専門新聞『北海道通信』1/31掲載

手稲養護三角山分校が初の試み

雪まつり 遠隔で楽しもう

ニューメディア開発協会と連携

手稲養護学校（星野健史校長）三角山分校は10日、アバターロボットを使ったさっぽろ雪まつり大通10丁目会場の遠隔見学に取り組んだ。一般財団法人ニューメディア開発協会と連携した初の試み。生徒たちは、アバターロボット「Kubi」を学校で操作しながら、人気ゲームや漫画のキャラクターの雪像を満喫した。

北海道医療センターに隣接する同校は、これまでも、ICTを活用したアバターロボットによる校外学習やカフェでの接客体験など、病弱児童生徒の自立や社会参加の可能性を広げる教育活動を展開している。ニューメディア開発協会などが連携。アバターロボット「Kubi」を雪まつり会場に設置し、児童生徒が学校や病院から遠隔操作することで、興味・関心のある雪像を存分に見学してもらおうと初めて企画した。

当日は、星野校長をはじめ手稲養護本校や三角山分校の教員8人と、ニューメディア開発協会新情報技術企画グループの林充宏グループ長、平出順二部長が大通10丁目会場にスタンバイ。星野校長のかけ声で雪像見学を開始した。

教員らは、10丁目会場にある高さ14㍍、幅20㍍の大雪像を寄せや引きのポジションに移動しながら端末をセット。学校や札幌医科大学病院、札幌北楡病院にいる児童生徒は、Kubiを上下左右に動かしながら、雪像を見学した。

続いて、9丁目会場の市民雪像に カメラを移動。事前のアンケートで興味・関心が高かった人気アニメのキャラクターを模した雪像を見ながら、雪まつりを堪能した。

午後からは、全国の特別支援学校児童生徒を対象に、ライブ配信した。星野校長は「来場者の音声も含めて、雪まつりの楽しさを感じてほしい」と期待した。

林グループ長は「ICTを活用しそイベントを楽しんだり交流したりすることで、児童生徒の社会適応力向上とともに、気持ちが前向きになるというデータもある」と効果を説明する。

今後は、大阪・関西万博のライブ配信なども計画しているという。教職員がICT活用に積極的な三角山分校との連携継続を期待しながら「教職員にノウハウを伝え、ぜひ活用の輪を広めてもらいたい」と述べた。

雪まつり会場から雪像をライブ配信した

学校でアバターロボットを操作する生徒たち

教育専門新聞『北海道通信』2/17掲載

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 毎日5%おトク ※条件・上限あり

キーワードを入力

トップ | 速報 | ライブ | エキスパート | オリジナル | みんなの意見 | ランキン

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | ライフ | 地域

アバターロボット活用し『さっぽろ雪まつり』を楽しむ！“まるで目の前で大雪像を見ているよう”―病気療養などで外出が難しい子どもたちが遠隔操作で笑顔「カメラも動かせてリアルのような体験」 北海道札幌市

2/10(月) 12:28 配信

北海道ニュースUHB

UHB 北海道文化放送

YAHOOニュース＆　UHB北海道文化放送　2/10掲載

END